

レベル		I	II	III	IV	V	
定義	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
	とらえる力 ニーズを	レベル毎の目標	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえる事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	レベル毎の目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
行動目標		<ul style="list-style-type: none"> □指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながらケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実施できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択域の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予防的および予防的に看護実践ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追及できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる 	
看護の核となる実践能力	協働する力	レベル毎の目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる 	<ul style="list-style-type: none"> □複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を	レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> □適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的大きく文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
定義	レベル毎の定義	責任の最も軽い、難易度の最も低い、軽微な組織の役割を果たす。看護チームでは、チームメンバーの役割、病棟の係としては、簡単なルーチンの係の役割を遂行できる	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を遵守した行動がとれる。日々の看護業務においてメンバーシップがとれる	所属する職場で、組織的役割が遂行できる。看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターのリーダーシップ役割、病棟での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる	所属する職場で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割を遂行できる。看護単位の課題の明確化ができる	所属を超え、看護局や病院から求められる役割を遂行できる。看護単位の課題に対し、具体的解決を図れる	
組織的役割遂行能力	法的専門的実践・倫理的力	レベル毎の目標	社会人、組織人としての自覚を持ち行動する指導・助言を得ながら、組織のなかでチームメンバーとしての役割を果たす	専門職業人、組織人として行動する組織の中でチームメンバーとしての役割を果たす	所属する部署でリーダーシップ役割を遂行する看護チーム全体の状況を捉えて行動する基本的な看護実践の指導や助言を行う	所属する部署で、特殊なまたは、専門的な能力を必要とされる役割、または指導的役割を遂行する	
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □病院理念、看護局目標、部署目標を知り実践計画があげられる □業務にかかわる基準・手順について理解できる □薬剤・血液製剤の管理方法が理解できる □医療者としての自覚を持ち、倫理に基づいて責任ある行動がとれる 	<ul style="list-style-type: none"> □病院理念、看護局目標、部署目標を理解した上で個人目標を立案し目標達成に向けた行動ができる □業務基準にそって業務がでる □薬剤(麻薬・劇薬・毒薬・向精神薬)・血液製剤の管理ができる □医療者としての自覚を持ち、患者を尊敬し信頼関係を構築することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □病院理念、看護局目標、部署目標を理解した上で個人目標を立案し目標達成に向けた行動ができ評価、修正ができる □業務基準にそって業務がで、メンバーのサポートができる □自施設で実施されている感染対策を組織の一員として確実に実践することができる □医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの必要性を理解し、行動がとれる 	<ul style="list-style-type: none"> □病院理念、看護局目標、部署目標の達成に向け、自己の課題と行動が明確にできる □業務基準にそって業務を指導できる □薬剤(麻薬・劇薬・毒薬・向精神薬)・血液製剤の使用が指導できる □医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの必要性を指導することができる 	
	マネージメントする力	レベル毎の目標	社会人、組織人としての自覚を持ち行動する指導・助言を得ながら、組織のなかでチームメンバーとしての役割を果たす	専門職業人、組織人として行動する組織の中でチームメンバーとしての役割を果たす	所属する部署でリーダーシップ役割を遂行する看護チーム全体の状況を捉えて行動する基本的な看護実践の指導や助言を行う	所属する部署で、特殊なまたは、専門的な能力を必要とされる役割、または指導的役割を遂行する	所属する部署で、特殊なまたは、専門的な能力を必要とされる役割、または指導的役割を遂行する
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □物品の管理方法が理解できる □自施設で実施されている医療安全管理体制について組織の一員として理解できる □自施設で実施されている感染対策について組織の一員として理解できる □日常業務において基本的な感染予防策の必要性を理解し、実施できる □自施設で実施されている災害・防災管理について組織の一員として理解できる □自己管理の必要性を理解し、助言を受け責任ある行動がとれる 	<ul style="list-style-type: none"> □物品の管理ができる □自施設で実施されている医療安全管理体制について組織の一員として自主的に取り組むことができる □自施設で実施されている感染対策を組織の一員として自主的に取り組むことができる □日常業務において医療従事者間で感染防止策の実践を高めあうことができる □自施設で実施されている災害・防災管理について組織の一員として自主的に取り組むことができる □自己管理能力を身につけ、自律して責任ある行動がとれる 	<ul style="list-style-type: none"> □率先して物品の管理ができる □自施設で実施されている医療安全管理体制について組織の一員として確実に実践することができる □自施設で実施されている感染対策を組織の一員として確実に実践することができる □所属部署の感染対策を役割とし、遵守と改善に努めることができる □自施設で実施されている災害・防災管理について組織の一員として率先して取り組むことができる □自己管理能力を高め、必要時に周囲に助言ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □物品の管理方法について指導できる □自施設で実施されている医療安全管理体制について組織の一員として指導できる □自施設で実施されている感染対策について組織の一員として指導できる □感染管理について学び実践できる □自施設で実施されている災害・防災管理について組織の一員として指導できる □自己管理能力について指導できる 	
定義	レベル毎の定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組む、後輩のモデルとなること	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組む、後輩のモデルとなること	
自己教育・研究能力	専門性を開発する力	レベル毎の目標	指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気づき、専門職として継続教育の必要性が理解できる	自己の教育的課題を見出し、専門職として継続教育に取り組むことができる	自己の教育的課題達成に向けて、専門職として継続教育に取り組む、指導的役割を実践する。看護実践を通して、自己のキャリア開発を考える事ができる	自己の教育活動に積極的に取り組むとともに、専門職としてキャリア開発に努めることができる。また、後輩の役割モデルとなること	
		行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □専門職として新人看護職員研修の必要性を理解し、また、職能団体の活動を理解して自分がその一員であることを意識できる □指導・助言を受けながら、自らの実践を定期的に見直すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護の専門的イメージを促進し、維持できる □自らの基本的な看護の実践を定期的に見直すことができる □生涯学習の責任を引き受ける必要性を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □専門職として継続教育に取り組む、新人や看護学生に指導的な役割を実践できる □自らの実践を定期的に見直すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> □専門職として後輩育成に取り組むながら自己のキャリア開発に努めることができる □効果的な役割モデルとして行動できる □根拠に基づいた実践ができる □役割モデルとして自らの実践を定期的に見直し、部署での看護の提供において主導的役割を示すことができる 	

レベル		I	II	III	IV	V
定義	レベル毎の定義	指導助言を得ながら看護師として必要な基本的姿勢・態度で看護実践できる	看護師として必要な基本的姿勢・態度で看護実践できる	看護師として必要な基本的姿勢・態度が、新人や看護学生に対し役割モデルとなる	看護師としての必要な基本的姿勢・態度が、後輩の役割モデルとなる	
	レベル毎の目標	指導助言を得ながら看護師として必要な基本的姿勢・態度について理解し行動できる	看護師として必要な基本的姿勢・態度について理解し行動できる	看護師として必要な基本的姿勢・態度で看護実践をするともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	看護師として必要な基本的姿勢・態度で実践をするともに、後輩に対する役割モデルとなる	
基本的資質・態度	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> □看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる □患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる □組織における役割、心構えの理解と適切な行動がとれる □生涯にわたる主体的な自己学習を継続できる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる □患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる □組織における役割、心構えの理解と適切な行動がとれる □生涯にわたる主体的な自己学習を継続できる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる □患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる □組織における役割を理解し適切な行動がとれる □生涯にわたる主体的な自己学習を継続できる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる □患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる □組織における役割を果たすための適切な行動がとれる □生涯にわたる主体的な自己学習を継続できる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる □患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる □組織における役割を果たすための適切な行動がとれる □生涯にわたる主体的な自己学習を継続できる